

佐賀市文化財調査報告書第30集

阿 高 遺 跡

平成2年3月

佐賀市教育委員会

発 刊 に あ た っ て

昭和61年度に開始された北川副地区の農業基盤整備事業は本年で4年目をむかえ、同地区で最初の発掘調査となりました。

本年は阿高遺跡を調査し、古墳時代の土壙、中世の井戸、溝等を検出しました。出土遺物には土師器（小型丸底埴・甕・壺）、須恵器（坏・横瓶・甕）、瓦器（塀）、土師質土器（鉢・釜）等があります。

北川副地区は原始、古代の遺跡は存在しないと考えられていましたが、今回の発見で阿高地区以外にも遺跡がある可能性がでてきました。今後の発掘調査により、市域南部の歴史が、解明されてくるものと考えます。

なお、調査に際しまして、御協力いただきました佐賀県農林部、佐賀県教育委員会、ならびに地元の方々に対し、厚く御礼申し上げます。

佐賀市教育委員会

教育長 山 田 清 人

目 次

I 序 説	1	III 調査の記録	3
1. 調査に至る経過	1	1. 調査の概要	3
2. 調査の意識	1	2. 遺 構	3
		3. 遺 物	10
II 遺跡の位置と環境	1	IV 小 結	16
1. 遺跡の位置	1		
2. 歴史的環境	1		

例 言

1. 本書は農業基盤整備事業に伴い、平成元年度に実施した阿高遺跡（A地区）の発掘調査報告書である。
2. 調査は佐賀県農林部の委託をうけて、佐賀市教育委員会が実施した。
3. 調査遺跡の所在地・規模等は以下のとおり

遺跡登録番号	2108・3111・4033・5113	遺 跡 略 号	ADK
調 査 地	佐賀市北川副町大字光法字阿高	開 発 面 積	352,000 m ²
調査対象面積	2,600 m ²	調査実績面積	2,600 m ²
遺跡調査番号	0104	調 査 期 間	平成元年6月3日 ～同年8月24日

4. 発掘作業・整理作業・報告書作成の分担は以下のとおり

表土除去	有限会社 江下建設	遺物復元	
空中写真	有限会社 空中写真企画	遺物実測	貞包洋子、浜野里美、浜田糸子
遺構実測	有限会社 朝日測量		島 京子
遺溝個別実測・写真	福田義彦	製 図	貞包洋子
5. 調査・整理記録及び出土遺物は、佐賀市文化財資料館（佐賀市本庄町1121）で一括収蔵している。出土遺物は、佐賀市埋蔵文化財整理要綱に基づき整理している。
6. 本書の執筆は福田義彦がこれにあたった。

凡 例

1. 遺構については略号を用いる。分類は次のとおり。
SK：土壌、SE：井戸、SD溝P：小穴
2. 原則として、遺構の測定値はm単位、遺物はcm単位とした。
3. 表示した方位はすべて座標北（G. N）である。

I 序 説

1. 調査に至る経過

北川副地区における平成元年度、農業基盤整備事業は35.2haについて工事計画がなされた。これに伴い、昭和62年11月に当該地区の埋蔵文化財確認調査を実施した結果、遺跡の存在が確認された。この調査結果を基に、佐賀県農林部、佐賀県教育委員会文化課、佐賀市土地改良課、佐賀市教育委員会の4者で協議を行なった結果、水路予定地の1,950㎡について佐賀県農林部委託事業による発掘調査を実施し、記録保存を図ることになった。

発掘調査は平成元年6月3日から開始し、同年8月24日に現場作業を終了した。出土遺物の整理作業、報告書作成作業は佐賀市文化財資料館で行った。B地区については佐賀文化財調査報告書第28集を参照されたい。

2. 調査の組織

調査主体 佐賀市教育委員会

事務局 佐賀市教育委員会 社会教育課

課長 古川靖邦

課長補佐兼文化係長 中野和彦

事務吏員 甲木亮一（庶務担当）

同 福田義彦（調査担当）

発掘作業員 中島カズエ、江口ヒロ子、中島美佐子、式町幸子、新郷寿美枝、新郷クニ子、山田久子、貞包久枝、宮地富士子、江下和子、坂井初代、西村トシ子、西村美智子、末次ミサ子、坂井ツル代、園田秀子、公門幹枝、詫間正子、後藤信子、真崎イサ子、小森秀子、石井幸子

調査協力 佐賀県教育委員会、佐賀県農林部、佐賀中部農林事務所、佐賀市土地改良課、北川副土地改良区、地元各位

II 遺跡の位置と環境

1. 遺跡の位置

阿高遺跡は佐賀市北川副町大字光法字阿高にあって、佐賀市城南東部の標高2.5mを測る水田下に所在する。遺跡の北方約1.5kmには佐賀市域の排水河川である佐賀江がある。この江湖は潮汐の影響を受け、ほとんど高低差のない平地を西から東へ流れ筑後川に注いでいる。また、周辺にはさが平野特有のクリークが縦横に走っている。このような平野の中に小規模な集落が点在している。阿高遺跡は阿高集落を中心とする広がりをもつものであるが、今回の調査区は、その縁辺部にあたる。

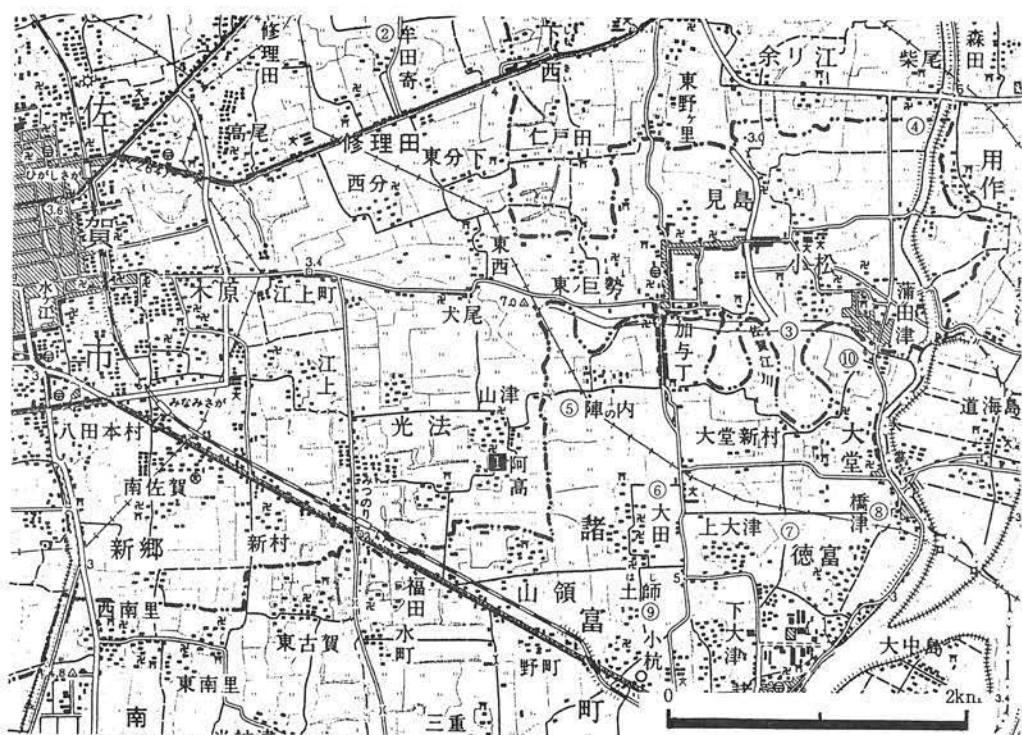


Fig. 1 阿高遺跡周辺遺跡分布図

- 阿高遺跡 ②牟田寄遺跡 ③蓮池上天神遺跡 ④柴尾橋下流遺跡 ⑤唐人廟遺跡
⑥太田本村遺跡 ⑦徳富権現堂遺跡 ⑧徳富権現堂遺跡 ⑨土師本村遺跡 ⑩村中角遺跡

2. 歴史的環境

佐賀市域の遺跡は、金立町、久保泉町の北部山麓に集中し、南部域にはあまり存在しないと考えられ、佐賀県遺跡地図にも遺跡空白の部分が多い。市域南部周辺でも近年遺跡の存在が明らかになってきた。これらの発掘調査の成果は、南部域で周知されていない遺跡存在の可能性を高くしている。

周辺の遺跡には柴尾橋下流遺跡（弥生時代～鎌倉時代、佐賀市）、徳富権現堂遺跡・村中角遺跡・唐人廟遺跡・上大津遺跡（弥生時代～室町時代、佐賀郡諸富町）、蓮池上天神遺跡（鎌倉時代、佐賀市）などがある。

このことは大小河川の堆積作用により、今まで考えられていた時期よりも早い時期に陸化が進み生活圏となっていたものといえる。この陸化は、近年の発掘調査、確認調査結果から判断すると、北川副町が所在する市城南東部が早く、嘉瀬川・西与賀町の南西部が遅いものといえる。

北川副地区は古代末以降になると文献にも登場してくる。同町周辺は河副本庄（河副北庄）の地域に相当する。本来、河副庄と呼んでいたものが、南部の干拓が進み、耕地が拡大するにしたがって、南部の河副南庄（現在の佐賀郡川副町一帯）と区別されるようになった。近世になると佐賀藩の蔵入地となり、川副代官の支配下になった。

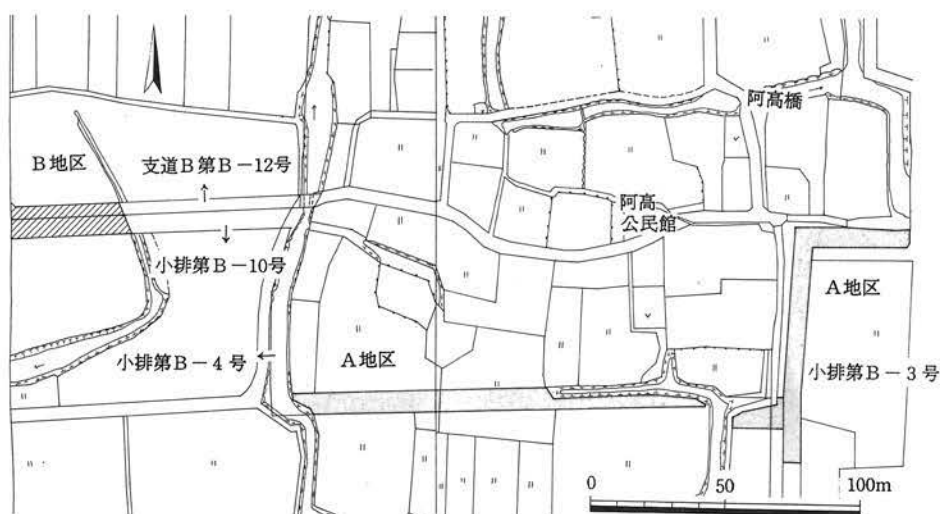


Fig. 2 遺跡周辺見取図

III 調査の記録

1. 調査の概要

調査区は阿高集落の南側から東側に伸びる幅6mの支線水路予定地である。この地域を調査の便宜上、A地区と呼称する。

調査の結果、井戸33基、土壌28基、溝8条、掘立柱建物跡1棟、小穴等を地表下0.2~0.4mで検出した。遺構は淡灰色の粘土に掘り込まれ、埋土が黒色又は黒褐色であったので、掘り込み面の識別は容易であった。同地区周辺の地山は、そのほとんどが粘土層であり、乾燥すれば亀裂が走り、雨が降ればそれが剝落するという状況で、遺構清掃に時間を多く費やした。

出土遺物には土師器（甕・坏・小型丸底埴・壺）、須恵器（埴・甕・横瓶）、瓦器（埴）磁器（碗）などがある。

2. 遺 構

SK006土壌 (Fig.3)

調査区中央にあって、SE007に南側掘込みを切られている。上面の平面形は円形を基調とするが、ややいびつになっており、南北0.68mを測る。底面はほぼ平垣で、壁は角度をもって直線的に立ち上る。

埋土は淡黒色、黄褐色（粘土まじり）層の2層に大別できる。掘込み下0.4m程度まで、土器片はほとんど検出しなかったが、黄褐色土になると、図のように土師器が集中して出土した。器種には小型丸底埴、壺形土器、高坏（破片）などがある。

SK041土壌 (Fig.4)

調査区西半にあって、南西約1mにSE016がある。上面の平面形は円形を基調とするが東西

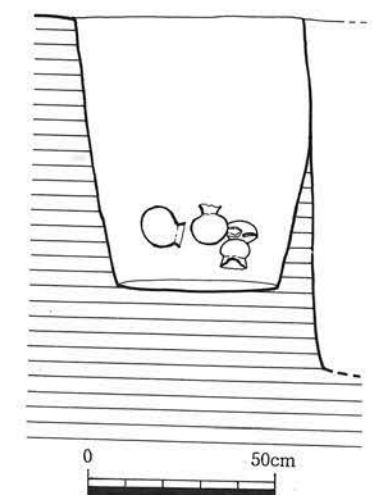
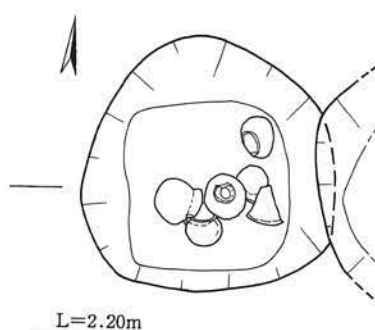


Fig. 3 SK006土壌実測図(S=1/20)

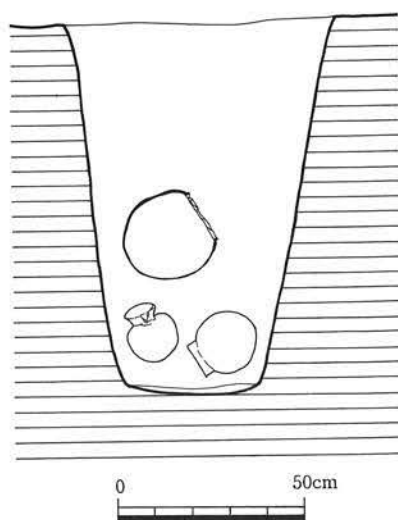
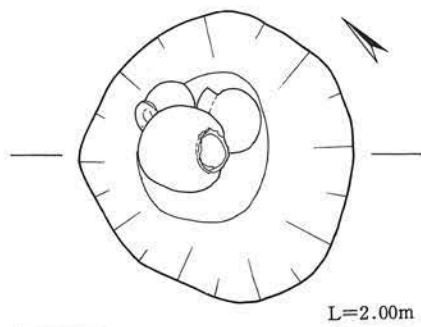


Fig. 4 SK041土壌実測図(S=1/20)

0.73m、南北0.77mで、検出時は南北にやや長い楕円形を呈する。底面は舟底状を呈し、狭い。壁面は角度をもって直線的に立ち上る。

埋土は上層淡黒色、下層黄褐色を呈す。出土遺物には瓦器・土師器がある。このうち瓦器は掘込み下0.2m程度で検出した。これは古墳時代の土壌掘方の中に深さ0.2m程度の鎌倉時代の土壌を掘込んでいたものと考え。主な出土遺物として土師器（甕・壺形土器）などがあり、掘込み下0.5～1.0mの間で検出した。残存状況は良好であった。

SK052土壌 (Fig.5)

調査区西端にあって、北西1mにSK063、北東2mにSE037がある。遺構の掘込み北端から約1mに水田の段差があり、同遺構は0.2～0.3m程度上半部を削平されているものと考え。上面の平面形は不定形で、東西0.37mを測る。底面はゆるやかな起伏があり、西から東にむけて傾斜がある。

埋土は上層黒色、下層暗黄褐色を呈する。出土遺物は主として下層から検出した。主な出土遺物として土師器（坏・甕）などがある。残存状況が良好なものは掘込み下0.15mで検出した。

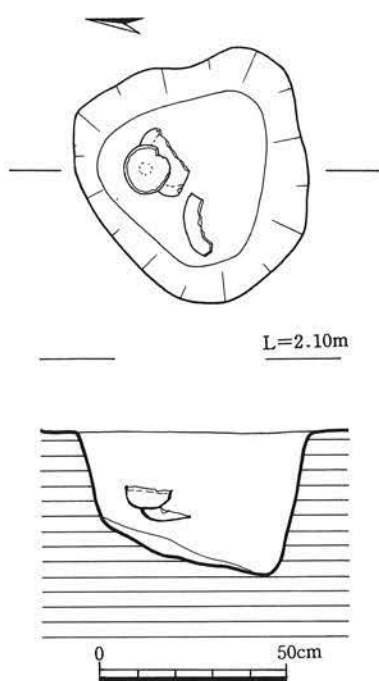


Fig. 5 SK052土壌実測図
(S=1/20)

SK063土壌 (Fig.6)

調査区西端にあって、水田の段差により南半掘り込みを0.3m程度削平されている。周辺には東南にSK052、西にSE038があるが、切合関係はない。上面の平面形は円形を基調

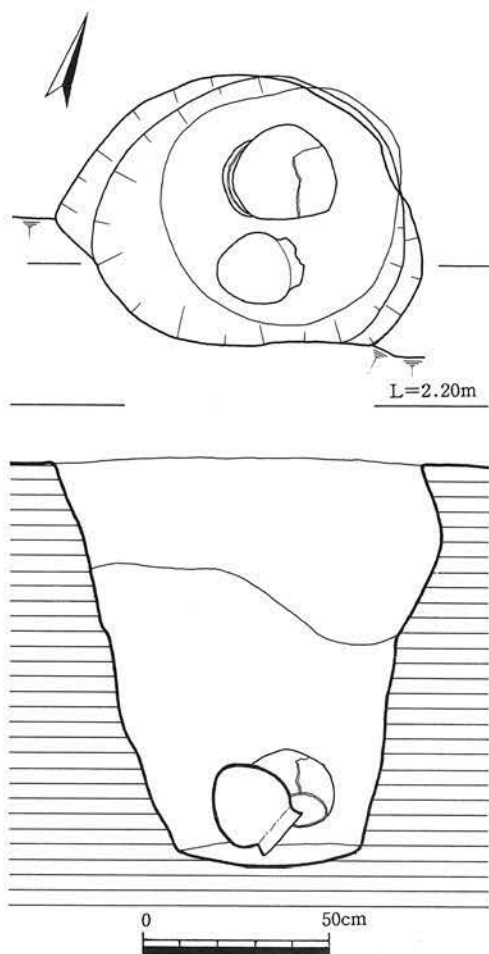


Fig. 6 SK063土壌実測図(S=1/20)

とするものと考え、検出時には東西0.97m、南北0.73mを測る。床面は舟底状を呈し、壁は角度をもって立ち上る。掘込み下0.3~0.5mの壁面に稜を有する。

埋土は上層淡黒色、下層黄褐色を呈する。遺物は埋土全域から検出したが、大半が細片であった。残存状況が良好な遺物は下層に集中し、土師器甕を3個体検出した。

SK069土壌 (Fig.7)

調査区の東半部にあって、遺構西側掘り込み付近を他の土壌と切合い関係がある。新旧関係が明確に把握できなかったので、遺構が重なり合っていると考えられる部分の出土遺物については『SK069西半』と注記し取上げた。上面の平面形は南北に長い楕円形を基調とするものと考え、後世のかん没、削平のため検出時には不定形であった。東西軸3.1m、南北軸4.4mを深さ0.5m測る。底面は緩やかな起伏があり、壁は、基本的には垂直に近い角度で立ち上る。

埋土は上層黒色、下層淡黒褐色を呈する。出土遺物には須恵器（高台付坏・甕・高坏・鉢）、土師器（坏・甕）を検出した。

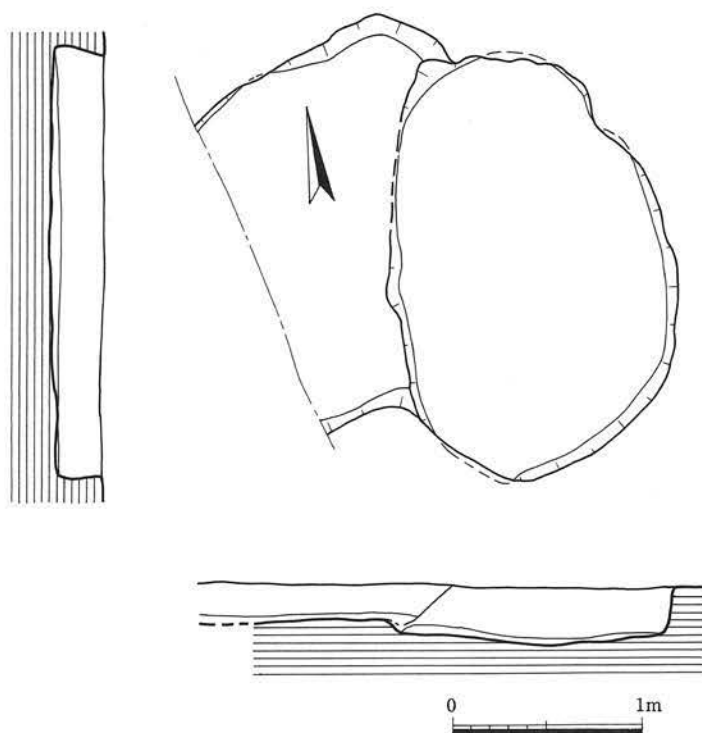


Fig. 7 SK069土坑実測図(S=1/20)

SE005井戸 (Fig.8)

調査区中央にあって、北側約1mにSK004西側約1mにSK009がある。素掘り、2段掘りの井戸である。遺構上面の平面形は検出時には不定形であったが、元来、南北にやや長い楕円形を基調とするものと考えられる。底面は緩やかな起伏がある。南壁は掘込み下0.6m付近の稜を有する付近まで垂直に立ち上り、そこからやや角度を緩やかな角度で掘込み面に至る。

埋土は上層から淡黒褐色土、黄褐色土（粘土ブロック）、黒色土に分かれる。主な出土遺物には土師器（坏）、瓦器（碗）、磁器（碗）がある。細片が多い。

SE016井戸 (Fig.9)

調査区の西半にあり、SE0117と切合い関係をもつ。新旧関係は同遺構が新しい。周辺にはSE023やSD005などがある。上面の平面形は南北にやや長い楕円形を基調とする。残存状況が良好な部分で南北1.8m、東西1.5m、深さ1.38mを測る。底面は緩やかな起伏があり、壁は稜付近まで垂直に立ち上る。稜からは、やや角度を緩やかにし、掘込み面に至る。

埋土は上層黒色、下層淡黒褐色の2層に大別できる。遺物は埋土全域から検出した。主な出土遺物に須恵器（甕）、土師器（坏・小皿）、青磁、白磁（碗）などがある。

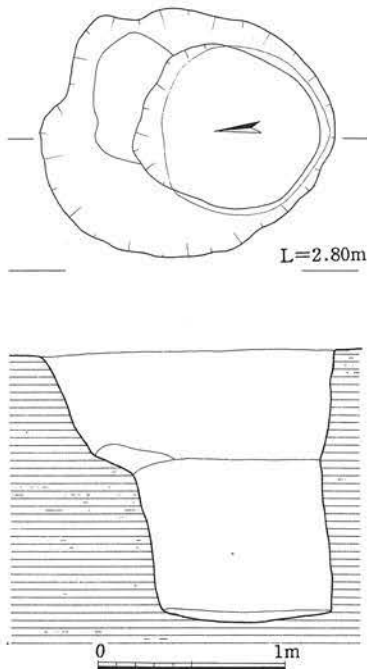


Fig. 8 SE005井戸実測図

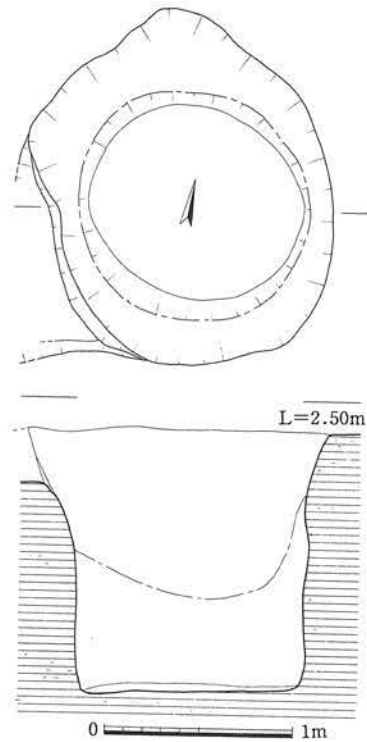


Fig. 9 SE016井戸実測図

SE028井戸 (Fig.10)

調査区の西半にある。少なくとも、溝1条、土壇2基と切合い関係をもつ。検出時で東西軸2.78m、南北軸2.8m、深さ1.3mを測る素掘の井戸と考える。しかし、遺構の規模から見た軸長と深さの比率を考えると、土壇である可能性もある。平面的に新旧関係が把握できたものは溝1条と南東隅の土壇1基で、いずれも、当遺構が切られている。また、図化できなかったが、中央部断面を観察すると径2m程度の土壇状のものを確認し、この遺構を切っていることがわかった。遺構北半は層位毎に遺物を取上げようとしたが、壁面崩壊のためこれも同一にしか取り上げられなかった。

埋土は6層に細分でき、掘込み下0.9~1.0m付近に藁灰状物質を確認した。出土遺物は埋土全域から検出した。主な出土遺物には黑色土器（高台付坏）、土師器（坏）、木製品（曲物底板）などがある。

SE037井戸 (Fig.11)

調査区最西端に検出した素掘り、2段掘りの井戸である。西側2mにSK063が位置する。SE073もSK063同様、遺構の南部を水田の段差により削平されている。上面の平面形は円形を基調とするもので、東西2.1mを測る。掘込み南側はSD051に切られている。床面は舟底状を

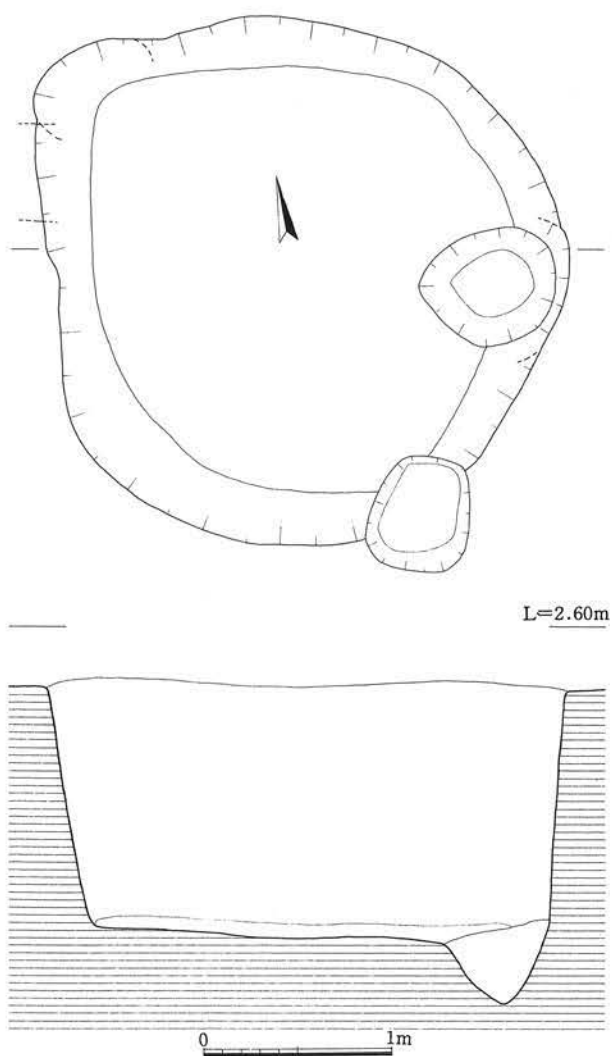


Fig. 10 SE028井戸実測図

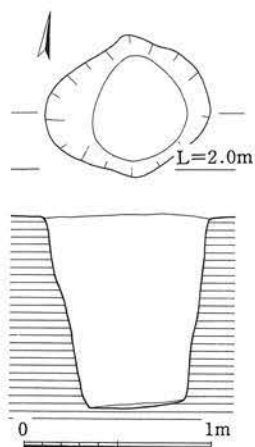


Fig. 12 SE045井戸実測図

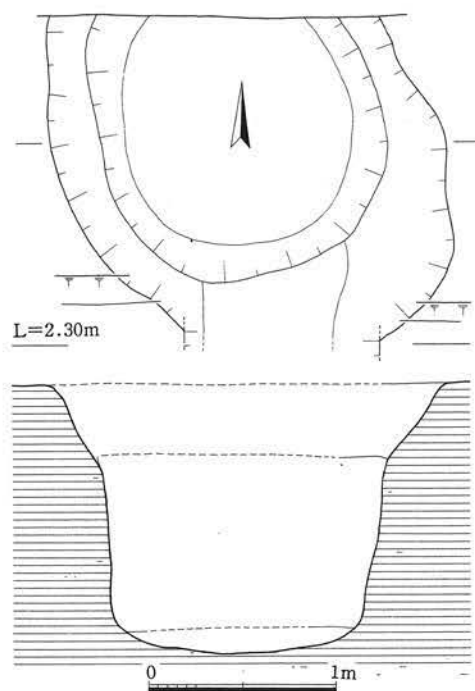


Fig. 11 SE037井戸実測図

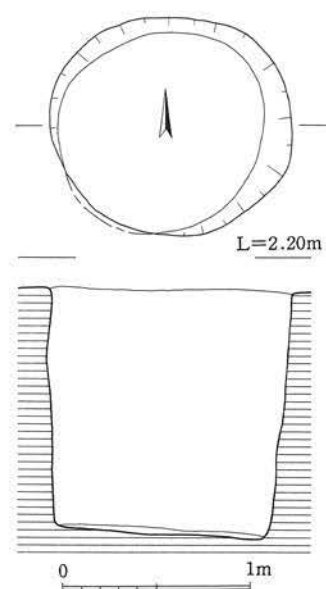


Fig. 13 SE078井戸実測図

呈し、壁は掘込み下0.4mの稜を有する付近まで角度をもって立ち上る。

埋土は上層淡黒、中層黒褐色、下層、淡黒褐色の3層に大別できる。出土遺物には瓦質土器（釜・鍋）、土師器（小皿）、木片等を埋土下層から検出した。

SE 0 4 5 井戸 (Fig.12)

調査区西半にあり、SE 027、028、044と近接する。上面の平面形は東西に長い楕円を基調とするものと考えるが、北、南中央の掘込み面がやや突出している。東西0.87m、南北0.75m、深さ1.03mを測る。素掘り、一段掘りの井戸である。本遺跡では比較的小型の井戸である。底面はほぼ平坦で、壁は角度をもって立ち上るが、西壁がやや稜い角度である。

埋土は上層黒色、下層淡黒褐色の2層に大別でき、遺物は埋土全域から検出した。主な出土遺物には須恵器（坏）、土師器（坏・甕）などがある。ほとんどが細片である。

SE 0 7 8 井戸 (Fig.13)

調査区東半部にあり、西側約1mにSD084、北側約2mにSE 079がある。上面の平面形は東西にやや長い楕円形を呈し、東西軸1.3m、南北軸1.15m深さ1.3mを測る。素掘り、一段掘りの井戸である。底面は稜やかな起伏があり、壁は四方ともほぼ垂直に立ち上る。

埋土は上層黒色、下層淡黒褐色を呈する。遺物は埋土全域から検出した。主な出土遺

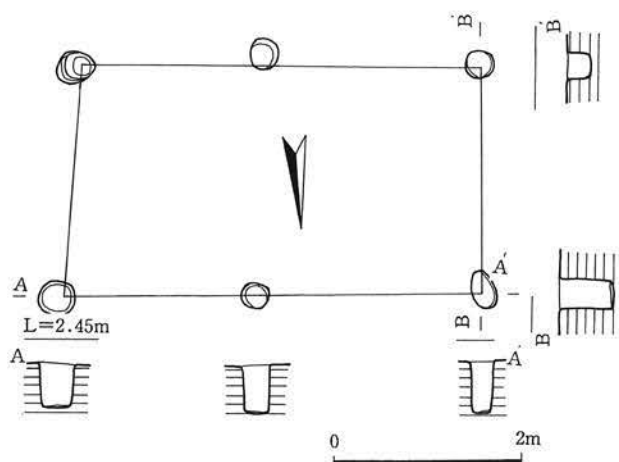


Fig. 14 SB075掘立柱建物跡実測

物には瓦器（碗）、土師器（坏・小皿）、磁器（碗）、滑石製石鍋等がある。

SB 0 7 5 掘立柱建物跡 (Fig.14)

調査区東端にあり、SD086とSD088の間に位置する。1間×2間の掘立柱建物跡である。柱穴の径は0.3から0.44m、深さ0.28から0.56mを深る。柱間の測定値は図中に表記しておりである。柱穴や出土遺物は検出できなかった。出土遺物がないことから時期決定はできないが、前述のSD086、088溝と有機的な関係を想定するならば鎌倉時代から室町時代にかけての所産であろう。

3. 遺 物

阿高遺跡（A地区）では古墳時代から中世に至る遺物を検出した。主な出土遺物には土師器（坏・埴・甕・高坏・皿）、瓦器（埴・小皿）、磁器（碗・皿）などがある。

1 から 3 は土師器坏。1 は口径14.4cm、器高 6 cm。口縁部は内傾する。調整は口縁部内外面ヨコナデ、内面ナデ、外面ハケ目。底部にヘラ記号を有する。2 は口径14.6cm、器高6.2cm。口縁部はわずかに内傾する。内面、口縁部ヨコナデ、下半部不定方向のナデ、外面口縁ヨコナデ、下半部ハケ目。3 は口径17.6cm、器高5.9cm。全体的に厚い器壁をもつ。調整は内面から外面口縁部にかけてナデ、ヨコナデ、外面下半部はヘラケズリ。4 から 8 は土師器小型丸底埴。口径6.9から8.8cm、器高8.3から9.7cm。調整は主として内面胴部のヘラケズリ、口縁部内外面のハケ目又はヨコナデ、胴部外面のハケ目。9・10は土師器壺形土器。口径10.1・11.6cm、器高14.5・17.7cm。調整はハケ目とヨコナデ、胴部内面のヘラケズリ等を主とする11から14は土師器甕11で口径14.4cm、器高22.7cmを測り、ほぼ完形。胴部は丸味をもち、最大径を胴部中央に有する。口縁部はわずかに外反する。調整は外面ハケ目、ヨコナデ、内面ヘラケズリ、ヨコナデを主とする。底部に焼成後の穿12がある。12は口径16.2cm、器高25.7cm。胴部は球状を呈し、口縁部は複合口縁状である。調整は外面、口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目、内面、口縁部ヨコナデ、頸部ナデ、ヨコナデ、指頭によるおさえ、胴部ヘラケズリによっている。13は口径17.

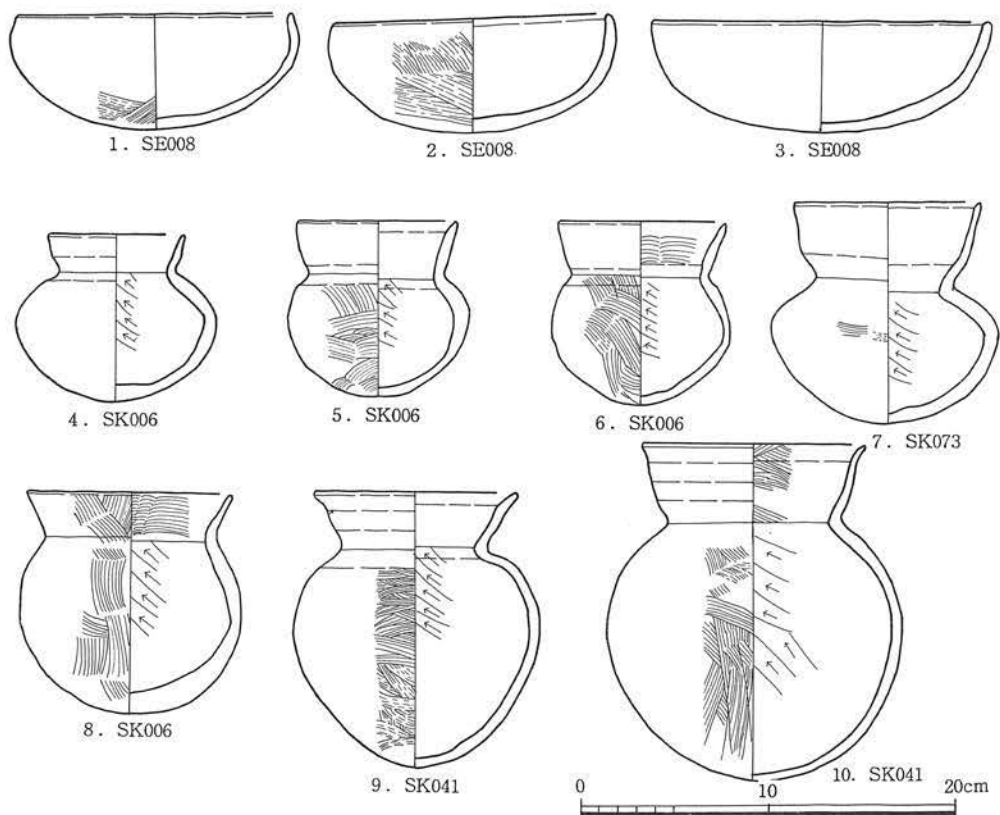


Fig.15 阿高遺跡（A地区）出土遺物実測図

5cm、器高25.9cm。胴部は球状を呈し、全体的に厚い器壁をもつ。口縁部は直線的に外反する。口縁外部から頸部にかけて強いヨコナデがある。調整はハケ目、ヨコナデ、ヘラケズリを主とする。ハケ目は外面底部にも及んでいる。14は口径18.2cm、器高29.1cmを測り、ほぼ完形。全体的に厚い器壁をもつが、口唇部は薄くなる。口縁部はこの種の甕の中では比較的角度をもって立ち上る。15・16は土師器高坏。15は復元口径21.2cm。口縁は内湾気味に立ち上り、端部がやや厚くなる。調整は主としてナデとヨコナデ。内部底面にわずかにハケ目が見られる。16は復元口径14cm。裾部と脚部の境界は比較的明瞭。外面は主としてナデとヨコナデ調整。坏部内面に同心円状のハケ目がある。17は土師器壺。この遺物はSE 039井戸下層からの出土であるが、他遺構との切合い関係を調べる途中、遺構壁面及びセクションの崩落があり、他遺物との供伴関係は不明確なものとなった。口径10.8cm、器高17.2cm。胴部は算盤珠状を呈し、口縁部は大きく外反する。調整、外面、口縁部、板状工具によるナデの後ヨコナデ、胴部上半板状工具によるナデの後ヘラミガキ、下半部ヘラミガキ、内面、口縁部ヨコナデ、胴部上半ナデ、ヨコナデ（輪積み痕を有する。）、下半部ヘラケズリによる。器外面には赤色顔料が塗られている。器外面の一部に黒斑あり。18は土師器甕。口径13.4cm、器高13.2cm。完形品である。底部は平底に近い。体部は直線的な立ち上りをみせ、口縁部で短く外反する。調整は外面、口縁部ヨコナデ、胴部ハケ目、内面、口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。19・20は土師器甕。20で口径24cm、器高24cm。厚い器壁をもち、口縁部は短く外反する。調整は18と同様。21は土師器甕。残存高23.6cm。調整は主として外面ハケ目、内面ヘラケズリ、ヘラ状工具によるナデによっている。22・2324は高台付土師器坏。口径13.4から15cm、器高3.7から5.8cm。23の内外面各1か所にヘラ書き文字がある。25は須恵器横瓶、ほぼ完形である。口径6.9cm、器高13.8cm。調整は主としてカキ目とヨコナデ。底部外面付近はヘラケズリ。26・27は須恵器甕。26は口径4.7cm。口縁部を欠失。胴部上半にクシ状工具による刺突文、中央部にカキ目、下半部にヘラケズリ。27は外面胴部中央付近にクシ状工具による刺突文がある。28から30は須恵器坏（蓋）28は輪状紐を有し、底径14cm、器高2.8cm、紐径8.05cm。紐から2cm程度は回転ヘラケズリ。29で底径14.5cm、器高3.4cm、30で口径19.8cm器高2cm。30はほとんど天井部空間がなく、口唇部も丸味をもつ。31・32は須恵器坏。31で口径14cm、器高2.7cm。底部外面に「稻」の墨書がある。32は口径13.4cm、器高4.8cm。底部と体部の境界に回転ヘラケズリを有する。33から36は須恵器高台付坏。33で復元口径10.6cm器高4.15cm。この種の中で最も法量が小さい。外面淡赤褐色を呈する。34で口径14.3cm、器高3.95cm。底部外面に「稻」の墨書有。35で復元口径11.8cm、器高4.25cm。体部は直立気味に立ち上り、口径に比して器高がある。36で復元口径14cm、器高3.9cm。底部外面に「秋」の墨書有。37は復元口径17.8cm、器高4.85cm。この種の中では最も高い計測値を示す。平坦な底部から口縁部は長く、直線的にのびる。高台外側に回転ヘラケズリを有する。38は須恵器甕。口径12.5cm、器高15.3cm、タタキ痕をわずかに観察できる。焼成不良で土師器の様相を呈する。39は須恵器高坏。口径18.4cm、脚径11.6cm、器高7.4cm。口縁部は短く内湾気味に立ち上る。内外面の一部に緑灰色の自然釉をかぶる。40から44は土師

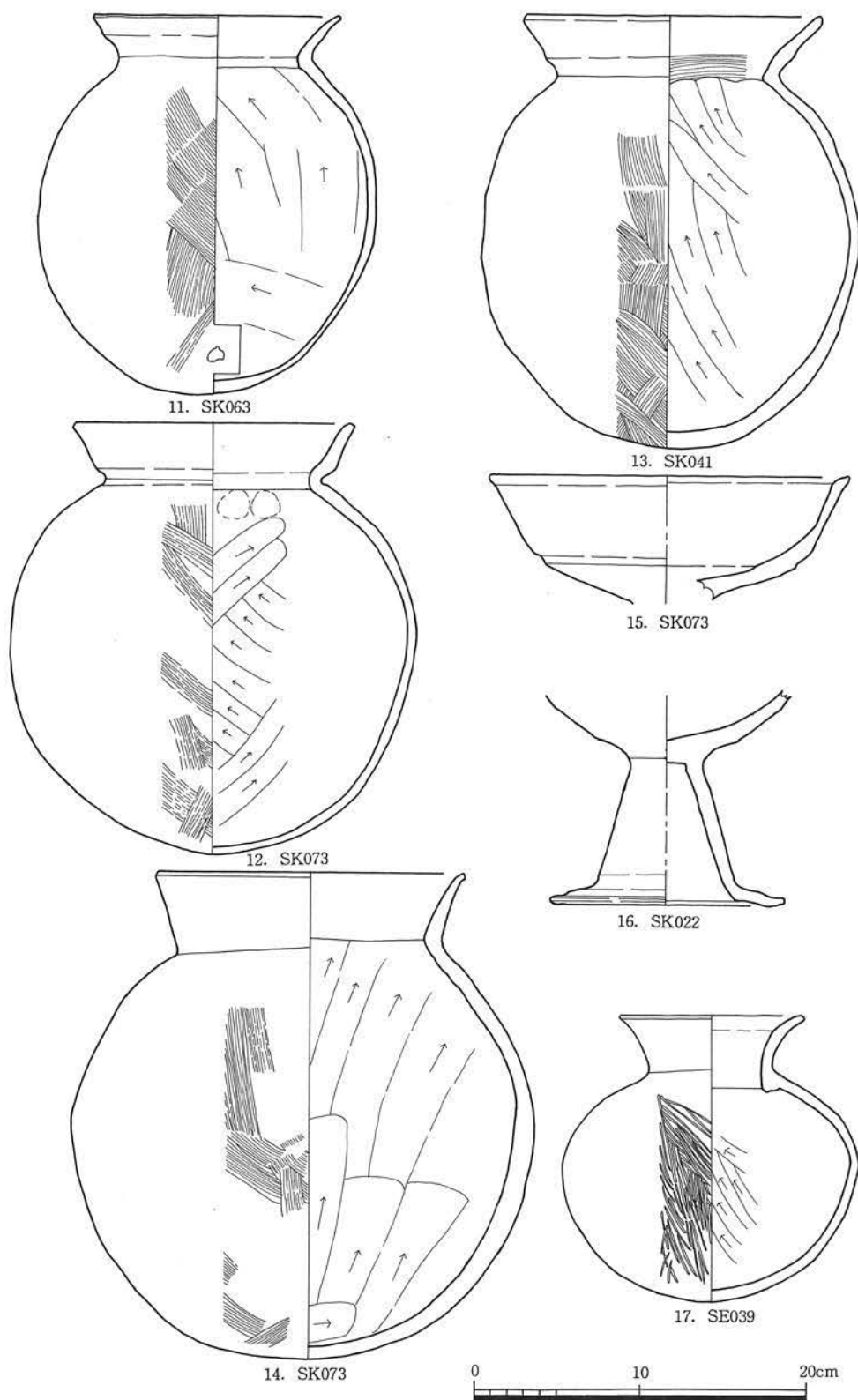


Fig. 16 阿高遺跡（A地区）出土遺物実測図（S=1/4）

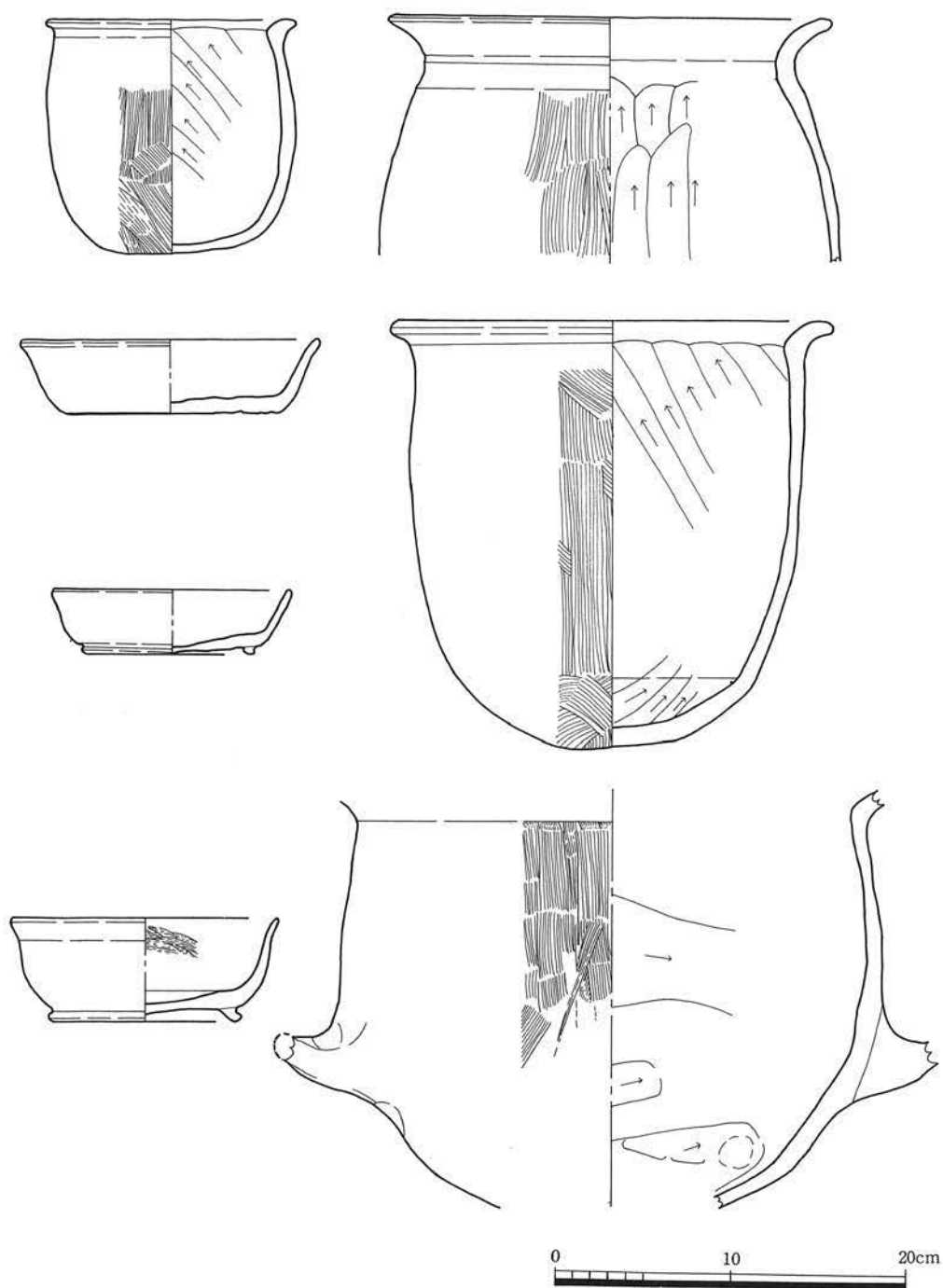


Fig. 17 阿高遺跡（A地区）出土遺物実測図（S=1/4）

器小皿。40から43で口径9.1から9.3cm、器高1.0から1.7cm。44で口径6.2cm、器高2.1cm、底径3.8cm。底面外部に糸切り痕有。45から47は土師器坏。口径10.4から10.8cm、器高2.5から3.2cm、底径4.8から6cm。底面外部に糸切り痕有。48・49は土師器坏。48で口径14.8cm、器高3.9

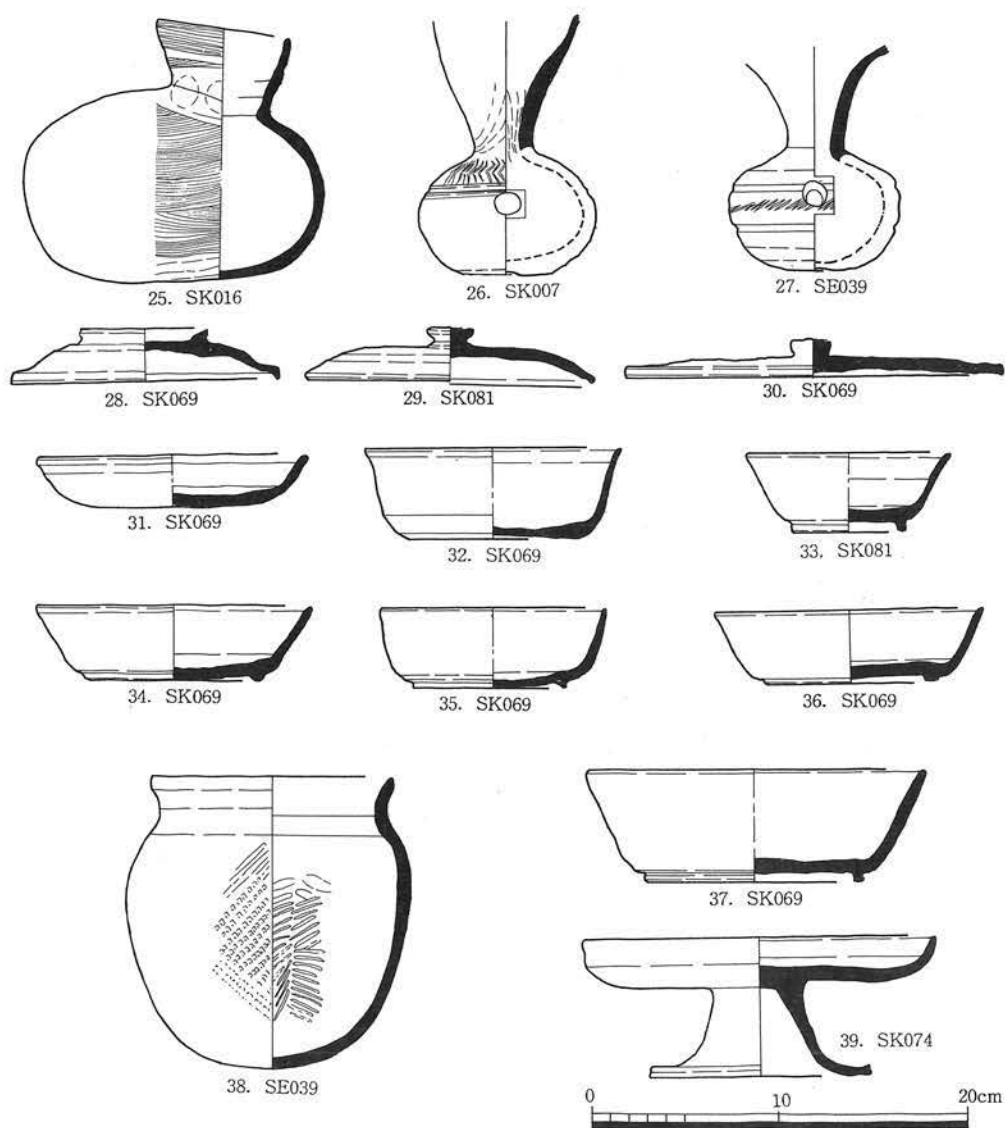


Fig. 18 阿高遺跡（A地区）出土遺物実測図（S=1/4）

cm、底径11.5cm。底面外部にヘラ切り痕有。49で口径15.6cm、器高3.6cm、底径9.1cm。底面外部に糸切り痕有。50は黒色土器（内黒碗）。口径16.4cm器高5.5cm、底径5.6cm。口縁部はやや角度をもち立ち上る。調整は口縁内外面ヨコナデ、胴部内外面ヘラミガキを主とする。51・52は瓦器碗。51で16.4cm、器高5.4cm、底径6.8cm。調整は外面ヘラミガキ、ヨコナデ、内面ヘラミガキを主とする。52は復元口径16.4cm、器高6.15cm、底径6.2cm。胴部外面に墨書を有する。53から55は磁器碗。53で復元口径13.0cm、器高6.3cm、底径5.3cm。内面は沈線で5区に分分されているものと推定する。文様は配していない。54は復元口径16.8cm、器高6.9cm、底径5.4cm。外面体部に蓮弁文を施す。55は口径11.8cm、器高4.6cm、底径5cm。ほぼ完形品。畳付部から内面は無釉。口縁部は内湾気味に立ち上り、端部でわずかに外反する。56は磁器皿。復元口径

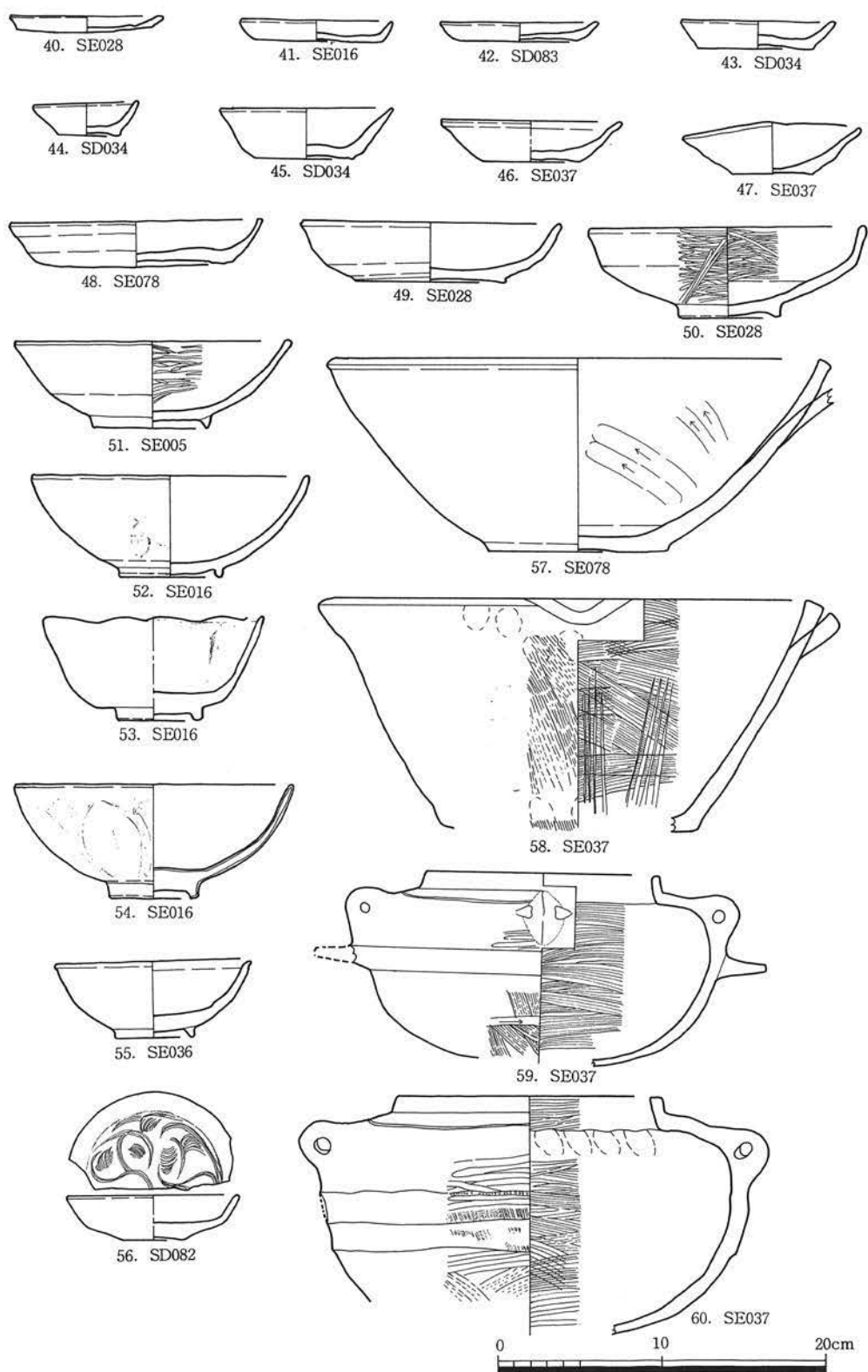


Fig.19 阿高遺跡（A地区）出土遺物実測図（S=1/4）

10.3cm、器高2.7cm、底径3.2cm。わずかに上げ底である。見込みには草花文を配す。57は須恵質土器（片口鉢）。口径29cm、器高11.85cm、底径10.7cm。調整は主としてヨコナデとナデ。東播系のものか。58は瓦質土器の摺鉢。口径28.5cm、器高14cm、底径15.5cm。平底である。体部はわずかに内湾しながら立ち上り、口唇部は概ね平坦で外傾する。調整は外面ハケ目、指頭によるおさえ、内面ハケ目。色調は内面淡黒色、外面灰褐色を基調とする。59・60は瓦質土器の釜。59で口径13.5cm。調整はハケ目、ヨコナデを主体とする。60は口径14.4cm、器高約14.5cm。外面胴下部にスス不着。調整は外面、ヨコナデ、ヘラミガキ、ハケ目、内面、ヨコナデ、ハケ目を主体とする。

IV 小 結

阿高遺跡は現在の阿高集落を中心に広がる遺跡と考える。今回は集落東・南とやや西に隔れた地点に計画されている水路部分の発掘調査を行った。遺跡の広がりから考えれば、やや西に隔れた水路部分（B地区、平成元年度国庫補助事業対応分）は、阿高集落との間に遺構の存在しない空白地帯があり、別の遺跡に包括される可能性もある。

調査の結果土壌28基、井戸33基、溝8条、小穴等を検出した。

古墳時代の遺構には土壌、井戸がある。これらの識別は計測値、土層の状況等で行ったが、調査員の主観が大であることも否めない。まず、土壌であるが、その多くが土師器（小形丸底埴・甕形土器・壺形土器坏）を伴い、それが掘込み面下0.1～1.0m程度の深さに埋置されている状況で検出した。土層を観察しても自然堆積層と考えられる黒色土部分からはほとんど検出されず、黄褐色又は暗褐色の土で一時期に何らかの意図をもって埋められたような状況を示す土層からの検出であった。検出土師器のセット関係は前述のとおりであるが、SK006土壌のみは高坏の脚部片を1点のみ検出した。これは、今回の調査では例外的なものであって、基本的には高坏を伴わない何らかの行為があったものと思料する。古墳時代の土師器器種において、表土下層からの検出を含めて全体を見ても、高坏の絶対量が少ないことを付記しておきたい。

井戸については、土壌と区別困難なものがあることは前述のとおりであるが、井戸であるための必要条件として、地表下1.5～1.8mにある青灰粘質土（有明海粘土層）まで掘り抜いていることをあげた。

奈良時代の遺構としては土壌がある。調査区東側にあるSK069土壌からは多量の須恵器、土師器が検出された。出土遺物は古墳時代の土壌のように埋置された形跡はなく、投棄されたものとする。

鎌倉時代から室町時代にかけての遺構には井戸、土壌、溝がある。今回の調査区では、この時代のものが最も多い。その中で井戸が最も多い。出土遺物には土師器、瓦器に混じって輸入磁器も見られる。この輸入磁器については有明海ルートの直接搬入も考えられている。溝は調査区が細長いので全容が判明したものはない。しかし、幅約5m程度のものもあり、集落又は居館をめぐる溝の存在も考えてみる必要があるだろう。ちなみに、本村遺跡（佐賀市文化財調査報告書第28集参照）では居館をめぐる溝が発見され、中世の屋敷のありかたを提示している。

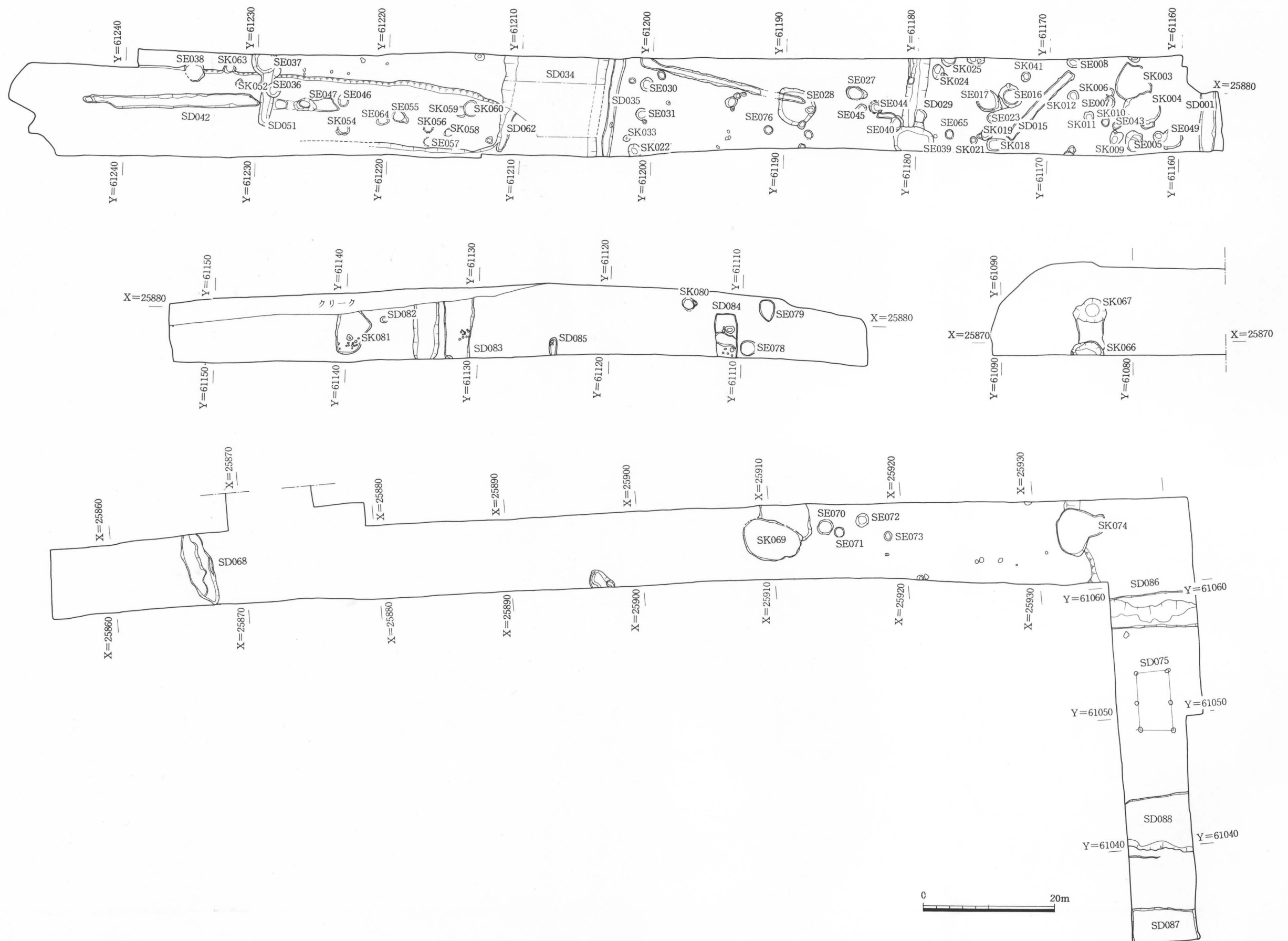


Fig. 20 阿高遺跡 (A地区) 遺物配置図

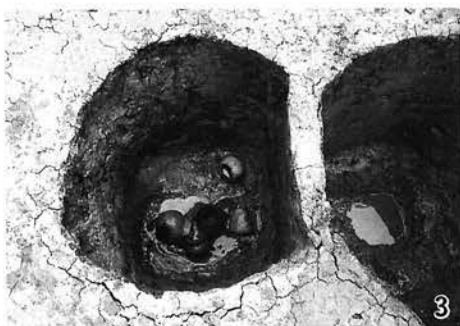
1. 阿高遺跡（A地区）
全景（西から）



2. 阿高遺跡（A地区）
中央部（南から）



3. SK006土壇



4. SK041土壇



5. SK063土壇

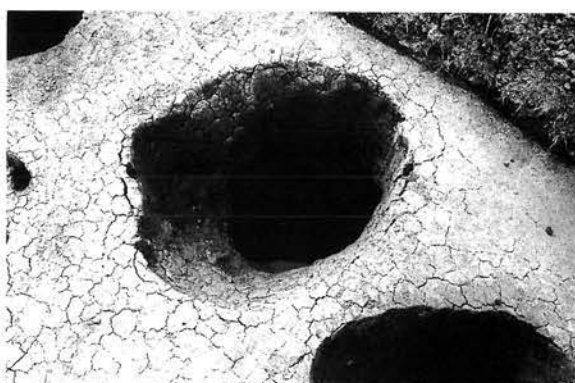


6. SK073土壇





7. SK069土境



8. SE005井戸



9. SE016井戸



10. SE028井戸



11. SE037井戸(上)・036井戸(下)



12. SE078井戸



13. A地区中央部(東)



14. 遺物検出状況

阿高遺跡（A地区）収蔵品目録

番号	名称	種別	時代	残存率(%)	法	量	遺構名	出土年月	実測図番号	報告書掲載 図番号	コンテナ番号	A・Bの別
001	坏	土師器	古墳	50%	推 口径14.2	器高3.5	S K 004	890629	1-1	1	1	A
002	坏	土師器	"	50%	口径14.6	器高3.0	S K 004	890629	1-2	-	1	A
003	埴	土師器	古墳	完形	口径8.4	器高9.2	S K 006	890705	1-4	15-5	1	A
004	埴	土師器	古墳	完形	口径8.8	器高9.7	S K 006	890705	1-5	15-6	1	A
005	埴	土師器	古墳	90%	口径6.9	器高8.8	S K 006	890705	1-6	15-4	1	A
006	埴	土師器	古墳	体部のみ 80%		残 器高7.7	S K 006	890705	1-7	-	1	A
007	埴	土師器	"	95%	口径10.7	器高11.7	S K 006	890705	2-8	15-8	8	A
008	甗	須恵器	"	80%	口径4.7	残 器高13.8	S K 007	890704	2-12	18-26	1	A
009	横瓶	須恵器	"	95%	口径6.9 底径7.3	器高13.85	S K 016	890725	26-160	18-25	1	A
010	高坏	土師器	"	60%	推 底径14.0	残 器高12.8	S K 022	890627	5-26	16-16	1	A
011	壺	土師器	古墳	95%	口径10.5	器高14.5	S K 041	890705	11-83	15-9	1	A
012	壺	土師器	古墳	完形	口径11.6	器高17.7	S K 041	890705	12-88	15-10	1	A
013	壺	土師器	古墳	80%	口径17.5	器高25.9	S K 041	890705	19-123	16-13	2	A
014	蓋	土師器		30%			S K 041	890705	未	-	2	B
015	高坏	土師器		脚部のみ	底径12.2	残 器高7.1	S K 050	890705	6-35	-	2	A
016	埴	土師器	古墳	不明		残 器高6.1	S K 052	890705	6-34	-	2	A
017	坏	土師器	古墳	完形	口径12.6	器高4.4	S K 052	890705	3-14	-	2	A
018	坏	土師器	古墳	50%	口径16.6	器高4.5	S K 052	890705	3-15	-	2	A
019	坏	土師器	"	50%			S K 058	890725	未	-	2	B

阿高遺跡（A地区）I種

番号	名称	種別	時代	残存率(%)	法	量	遺構名	出土年月	実測図番号	報告書掲載 Fig番号	コソナリ番号	A・Bの別
020	埴	土師器	古墳	完形	口径7.7	器高8.3	S K 059	890725	9-64	-	2	A
021	埴	土師器	古墳	完形	口径7.6	器高8.9	S K 059	890725	9-65	-	2	A
022	埴	土師器	古墳	完形	口径8.8	器高8.4	S K 059	890725	9-66	-	2	A
023	甗	土師器	古墳	不明	頸部 外径28.8	残 器高23.6	S K 060	890725	28-164	17-21	2	A
024	甗	土師器	古墳	完形	口径13.4	器高13.2	S K 060	890725	9-62	17-18	3	A
025	坏	須恵器	古墳	完形	口径8.1 底径4.1	器高2.45	S K 060	890707	21-130	-	3	A
026	小皿	土師器	鎌倉~室町	95%	口径8.8 底径7.2	器高2.1	S K 062	890707	10-81	-	3	A
027	小皿	土師器	"	90%	口径8.2 底径6.9	器高1.65	S K 062	890707	10-82	-	3	A
028	甗	土師器	古墳	95%	口径14.4	器高22.7	S K 063	890714	13-92	16-11	3	A
029	壺	土師器	"	70%		残 器高29.0	S K 063	890714	20-125	-	3	A
030	小皿	土師器	鎌倉~室町	60%	口径8.8 底径7.0	器高1.25	S K 067	890713	10-79	-	3	A
031	小皿	土師器	"	40%	推 口径9.4	推 器高1.25	S K 067	890713	10-80	-	3	A
032	蓋	土師器	奈良	60%	底径15.2	器高3.0	S K 069	890714	21-128	-	3	A
033	小皿	土師器	平安	完形	口径9.2 底径7.7	器高1.1	"	890713	16-114	-	3	A
034	甗	須恵器	奈良	不明	推 口径42.5	残 器高18.5	"	890713	33-171	-	4	A
035	高台付坏	須恵器	"	80%	口径14.3 高台径9.4	器高3.95	"	890713	16-108	18-34	5	A
036	高台付坏	須恵器	"	70%	推 口径1.8 高台径8.3	器高4.25	"	890713	16-109	18-35	5	A
037	高台付坏	須恵器	"	80%	口径12.6 高台径6.9	器高3.6	"	890713	16-110	-	5	A
038	高台付坏	須恵器	"	90%	口径12.9 高台径7.5	器高3.6	"	890713	16-111	-	5	A

阿高遺跡（A地区）I種

番号	名 称	種 別	時代	残存率(%)	法 量	遺 構 名	出土年月	実測図番号 Fig番号	報告書掲載 コンテナ番号	A・Bの別
039	高台付坏	須恵器	"	40%	推 口径14.0 高台径9.2 器高3.9	"	890713	16-112	18-36	5 A
040	高台付坏	須恵器	"	50%	推 口径17.8 高台径11.6 器高4.85	"	890713	17-117	18-37	5 A
041	高坏	須恵器	奈良	不明	残 器高10.0	S K 069	890713	14-96	-	5 A
042	蓋	須恵器	奈良	60%	つまみ 径2.3 底径19.8 器高2.0	S K 069	890714	16-107	18-30	5 A
043	坏	須恵器	"	70%	口径13.3 底径10.0 器高3.1	S K 069	890713	16-113	-	5 A
044	坏	須恵器	"	60%		S K 069	890714	未	-	5 B
045	甕	土師器	"	口縁の 25%	推 口径22.4 器高11.0	S K 069西半	890714	17-119	-	5 A
046	甕	土師器	"	口縁の 30%	推 口径25.0 器高13.9	S K 069西半	890714	18-120	17-19	5 A
047	甕	土師器	"	口縁の 25%	推 口径18.0 器高10.8	S K 069西半	890714	18-121	-	5 A
048	高台付坏	土師器	"	60%	口径15.0 器高5.8	S K 069西半	890714	11-85	17-24	5 A
049	甕	須恵器	"	口縁のみ	推 口径11.4 器高9.75	S K 069西半	890714	18-122	-	5 A
050	蓋	須恵器	奈良	60%	つまみ 径8.05 底径14.0 器高2.8	S K 069西半	890714	16-106	18-28	6 A
051	坏	須恵器	奈良	50%	推 口径14.0 底径9.4 器高2.7	S K 069西半	890714	17-115	18-31	6 A
052	坏	須恵器	奈良	40%	推 口径13.4 底径9.0 器高4.8	S K 069西半	890714	17-116	18-32	6 A
053	坏	須恵器	"	50%	推 口径16.5 底径12.5 器高4.2	S K 069西半	890714	17-118	17-22	6 A
054	坏	土師器	"	40%		S K 070	890713	未	16-15	6 B
055	甕	須恵器	"	不明	口径47.2	S K 070	890713	34-172	-	6 A
056	坏	須恵器	"	95%		S K 070	890713	未	-	6 B
057	坏	土師器	"	30%		S K 070	890713	未	-	6 B

阿高遺跡（A地区）I種

番号	名称	種別	時代	残存率(%)	法	量	遺構名	出土年月	実測図番号	報告書掲載 Fig番号	コンテナ番号	A・Bの別
058	壺	土師器	古墳	完形	口径10.1	器高15.1	S K073	890720	9-63	-	6	A
059	壺	土師器	古墳	95%	口径18.2	器高29.1	S K073	890717	26-159	16-14	6	A
060	壺	土師器	古墳	80%	口径16.2	器高25.7	S K073	890717	29-165	16-12	7	A
061	壺	土師器	古墳	50%	口径15.4	残 器高23.0	S K073	890717	30-166	-	7	A
062	壺	土師器	古墳	50%	口径17.4	残 器高19.5	S K073	890717	30-167	-	8	A
063	埴	土師器	古墳	80%	推 口径9.8	器高11.65	S K073	890717	11-87	15-7	8	A
064	高坏	土師器	"	不明	推 口径21.2	残 器高7.5	S K073	890717	20-127	-	8	A
065	甕	土師器	奈良	60%	口径24.0	器高24.0	S K074	890717	19-124	17-20	8	A
066	蓋	土師器	"	30%	底径15.4	器高3.1	S K074	890717	21-131	-	8	A
067	蓋	土師器	"	60%	底径15.2	器高3.3	S K074	890717	21-132	-	8	A
068	蓋	土師器	"	40%	底径14.4	器高3.2	S K074	890717	21-133	-	8	A
069	坏	土師器	古墳	90%	口径14.8	底径10.4 器高3.85	S K074	890717	21-134	-	8	A
070	かまどの支柱	土師器	"	不明			S K074	890717	34-155	-	8	A
071	高坏	須恵器	奈良	80%	口径18.4	底径11.6 器高7.4	S K074	890717	14-98	18-39	9	A
072	碗	陶器	江戸	40%	推 口径10.2	器高7.6	S K074	890717	22-135	-	9	A
073	牛のつの	骨	不明				S K074	890717	32-170	-	9	A
074	壺	土師器	古墳	80%	口径18.3	器高19.5	S K075	890717	25-157	-	9	A
075	蓋	須恵器	奈良	50%	つまみ 径2.0	底径14.5 器高3.4	S K081	890727	22-139	-	9	A
076	蓋	須恵器	奈良	40%	つまみ 径2.6	底径15.4 器高3.3	S K081	890727	22-140	18-29	9	A

阿高遺跡（A地区）I種

番 号	名 称	種 別	時 代	残存率(%)	法 量	遺 構 名	出土年月	実測図番号	報告書掲載 Fig.番号	コンテナ番号	A・Bの別
077	高台付坏	須恵器	奈良	40%	推 口径10.6 高台径5.8 器高4.15	S K 081	890727	22-141	18-33	9	A
078	皿	磁 器	鎌倉	50%	推 口径11.0 底径4.4 器高2.6	S K 085	890727	23-147	-	9	A
079	碗	磁 器	"	20%	推 口径16.8 器高5.6	S K 085	890727	23-148	-	9	A
080	埴	土師器	古墳	60%	推 口径5.6 器高6.25	S D 034	890707	7-47	-	9	A
081	小皿	土師器	鎌倉~室町	80%	口径6.2 底径3.8 器高2.1	S D 034	890705	7-40	19-44	9	A
082	小皿	土師器	鎌倉~室町	完形	口径6.7 底径3.45 器高2.2	S D 034	890705	7-41	19-43	9	A
083	坏	土師器	鎌倉~"	90%	口径10.4 底径5.9 器高3.1	S D 034	7-42	19-45	9	A	
084	小皿	土師器	鎌倉~"	50%	推 口径8.8 底径7.6 器高1.4	S D 034	890705	7-43	-	9	A
085	小皿	土師器	鎌倉~"	70%	口径9.3 底径6.9 器高1.7	S D 034	890705	7-44	-	9	A
086	小皿	土師器	鎌倉~"	90%	口径9.0 底径7.0 器高1.6	S D 034	890705	7-45	-	9	A
087	小皿	土師器	鎌倉~"	90%	口径8.9 底径7.3 器高1.6	S D 034	890707	7-48	-	9	A
088	坏	土師器	室町~"	不明	底径10.5 器高3.2	S D 034	890705	7-46	-	9	A
089	碗	磁 器	鎌倉~"	98%	口径17.0 高台径5.9 器高7.15	S D 034	890705	7-50	-	9	A
090	碗(染付)	磁 器	江戸	不明	残 器高5.6	S D 034	890705	8-51	-	9	A
091	皿	磁 器	室町	20%	推 口径12.8 高台径6.4 器高3.3	S D 034	890707	6-37	-	9	A
092	皿	磁 器	室町	不明	推 口径24.0 器高3.7	S D 034	890705	6-38	-	9	A
093	皿	磁 器	室町~江戸	25%	推 口径15.4 高台径5.0 器高3.0	S D 034	890705	6-39	-	9	A
094	土錘	土製品	不明	完形	孔径 長さ6.0 径1.4 0.3~0.5	S D 034	890707	7-49	-	9	A
095	小皿	土師器	鎌倉	90%	口径8.6 底径6.8 器高1.2	S D 042	890705	10-67	-	9	A

阿高遺跡 (A地区) I 種

番 号	名 称	種 別	時 代	残存率(%)	法 量	遺 構 名	出土年月	報告書掲載 図面番号 Fig.番号	コソテナ番号	A・Bの別
096	小皿	瓦 器	"	50%	口径10.4 器高1.7	S D 042	890705	10-68	9	A
097	碗	瓦 器	"	完形	口径16.2 器高5.5	S D 042	890705	3-16	9	A
098	器台	土師器	不明	完形	口径2.6 底径3.2 器高4.5	S D 051	890705	10-76	9	A
099	坏	土師器	鎌倉	98%	口径16.3 底径13.0 器高2.9	S D 051	890705	10-78	9	A
100	小皿	土師器	鎌倉~室町	80%	口径8.2 底径6.5 器高1.2	S D 051	890705	10-77	9	A
101	土鍬	土製品	"	完形	長さ4.5 口径0.8~1.5 口径0.3~0.4	S D 051	890705	10-75	10	A
102	坏	土師器	"	完形	口径15.0 底径10.8 器高2.8	S D 082	890727	13-95	10	A
103	坏	土師器	"	70%	口径15.2 底径9.8 器高3.7	S D 082	890727	22-142	10	A
104	坏	土師器	"	80%	口径16.0 底径11.8 器高2.7	S D 082	890727	22-143	10	A
105	小皿	土師器	"	完形	口径8.6 底径7.0 器高1.5	S D 082	890727	9-101	10	A
106	皿	磁 器	"	50%	口径10.3 底径3.2 器高2.7	S D 082	890727	23-144	10	A
107	碗	磁 器	"	不明	高台径6.6 器高5.2	S D 082	890727	23-145	10	A
108	碗	磁 器	"	不明	高台径7.0 器高3.75	S D 082	890727	23-146	10	A
109	蓋	土師器	"	90%	口径7.6 底径11.4 器高2.2	S D 083	890727	12-91	10	A
110	小皿	土師器	"	完形	口径9.2 底径7.6 器高1.2	S D 083	890727	9-103	10	A
111	皿	土師器	"	90%	口径15.3 底径11.0 器高3.3	S D 084	890727	20-126	10	A
112	皿	土師器	"	50%		S D 084	890727	未	10	B
113	小皿	土師器	"	80%	口径8.4 底径6.4 器高1.05	S D 088	890821	23-149	10	A
114	碗	磁 器	"	高台部のみ	高台径6.0 器高3.5	S D 088	890821	23-151	10	A

阿高遺跡（A地区）I種

番号	名称	種別	時代	残存率(%)	法 量	遺構名	出土年月	実測図番号	報告書掲載 図番号	コンテナ番号	A・Bの別
115	皿	陶器	鎌倉～室町	50%	口径10.8 底径3.0 器高2.65	S D 088	890821	23-150	-	10	A
116	碗	瓦器	鎌倉	50%	口径16.4 高台径6.8 器高5.4	S E 005	890629	1-3	19-51	10-A	A
117	甕	土師器	古墳	不明	口径20.0 残 器高15.7	S E 008	890627	25-158	-	10	A
118	甕	土師器	"	不明		S E 008	890627	未	-	10	B
119	坏	土師器	古墳	完形	口径17.6 器高5.9	S E 008	890627	2-9	15-3	10	A
120	坏	土師器	古墳	完形	口径14.6 器高6.2	S E 008	890627	2-10	15-2	11	A
121	坏	土師器	古墳	80%	口径14.4 器高6.0	S E 008	890627	2-11	15-1	11	A
122	坏	土師器	平安	95%	口径20.0 底径12.7 器高2.6	S E 010	890803	13-93		11	A
123	小皿	土師器	"	90%	口径9.2 底径7.3 器高1.35	S E 016	890627	4-19	19-41	11	A
124	碗	瓦器	鎌倉	40%	推 口径16.4 高台径6.2 器高6.15	S E 016	890627	4-20	19-52	11	A
125	碗	磁器	鎌倉	15%	推 口径15.8 器高4.9	S E 016	890627	4-21	-	11	A
126	碗	磁器	"	40%	推 口径16.8 高台径5.4 器高6.9	S E 016	890627	4-22	19-54	11	A
127	碗	磁器	"	60%	推 口径13.0 高台径5.3 器高6.3	S E 016	890627	4-23	19-53	11	A
128	合子	磁器	"	完形	口径6.4 高台径2.6 器高1.85	S E 016	890627	4-24	-	11	A
129	小皿	土師器	鎌倉～室町	40%		S E 017	890722	未	-	11	B
130	小皿	土師器	鎌倉～室町	90%		S E 017	890722	未	-	11	B
131	皿	磁器	"	40%	推 口径11.0 底径6.0 器高2.65	S E 017	890722	21-129	-	11	A
132	坏	土師器	"	完形	口径14.8 底径11.5 器高3.3	S E 023	890627	5-27	-	11	A
133	有孔円盤	滑石製品	不明	不明	径2.8～2.9 孔径0.1 厚さ0.4	S E 024	890629	10-72	-	11	A

阿高遺跡（A地区）I種

番号	名 称	種 別	時 代	残存率(%)	法 量	遺 構 名	出土年月	実測図番号	報告書掲載 Fig.番号	コナテナ番号	A・Bの別
134	坏	須恵器	奈良	40%	推 口径14.3 底径 器高2.1	S E 027	890629	5-28	-	11	A
135	皿	瓦 器	奈良	70%	口径16.4 底径13.0 器高1.75	S E 027	890629	5-29	-	11	A
136	坏	土師器	鎌倉~室町	完形	口径15.6 底径9.1 器高3.6	S E 028	890725	5-30	19-49	11	A
137	坏	土師器	"	50%	推 口径16.4 底径9.5 器高4.0	S E 028	890705	13-94	-	11	A
138	小皿	土師器	"	完形	口径9.8 底径8.0 器高1.4	S E 028	890705	5-31	-	11	A
139	小皿	土師器	"	70%	口径9.55 底径6.7 器高	S E 028	890705	5-32	-	11	A
140	小皿	土師器	"	50%	口径9.4 底径7.6 器高1.3	S E 028	890725	5-33	-	11	A
141	小皿	土師器	"	完形	口径9.1 底径8.25 器高1.0	S E 028	890725	9-100	19-40	11	A
142	小皿	土師器	"	90%	口径9.7 底径7.9 器高1.4	S E 028	890725	9-102	-	11	A
143	小皿	土師器	"	70%		S E 028	890725	未	-	11	B
144	碗	黒色土器	鎌倉~室町	50%	口径16.4 高台径5.6 器高5.5	S E 028	890705	14-97	19-50	11	A
145	碗	瓦 器	"	90%	口径15.6 器高4.4	S E 028	890705	3-17	-	11	A
146	碗	瓦 器	"	90%	口径15.6 器高5.4	S E 028	890705	3-18	-	11	A
147	石鍋	滑石製品	"	不明		S E 028	890725	未	-	11	B
148	不明木器	木製品	不明	不明		S E 028	890725	174	-	12	B
149	甗	須恵器	古墳	不明		S E 030	890725	未	-	12	B
150	小皿	土師器	鎌倉~室町	40%	推 口径9.4 底径8.0 器高0.95	S E 036	890630	8-52	-	12	A
151	小皿	土師器	"	60%	推 口径9.8 底径4.7 器高2.6	S E 036	890630	8-53	-	12	A
152	碗	磁 器	"	完形	口径11.8 高台径5.0 器高4.6	S E 036	890630	6-36	19-55	12	A

阿高遺跡（A地区）I種

番号	名称	種別	時代	残存率(%)	法 量	遺 構 名	出土年月	図面番号	報告書掲載 Fig.番号	コンテナ番号	A・Bの別
153	甕	土師器	室町	不明	口径28.8 推 口径10.8 底径6.0 器高2.5 残 器高17.0	S E 037	890630	4-152	-	12	A
154	小皿	土師器	"	40%	口径9.8 底径5.0 器高2.75	S E 037	890630	8-54	19-46	12	A
155	小皿	土師器	室町	60%	口径10.6 底径4.8 器高3.2	S E 037	890630	8-55	-	12	A
156	小皿	土師器	"	80%	口径9.2 底径3.7 器高2.75	S E 037	890630	8-56	19-47	12	A
157	小皿	土師器	"	60%	口径28.5 底径15.5 器高14.0	S E 037	890630	27-162	19-58	12	A
158	摺鉢	瓦質土器	"	80%	口径13.5 器高11.5	S E 037	890630	14-99	-	13	A
159	釜	瓦質土器	"	不明	口径14.4 器高14.4	S E 037	890630	15-105	19-60	13	A
160	釜	瓦質土器	"	不明	口径14.2 器高11.5	S E 037	890630	25-156	19-59	13	A
161	釜	瓦質土器	"	80%	口径10.8 器高17.2	S E 039	890704	12-89	16-17	13	A
162	壺	土師器	古墳	95%	口径12.5 器高15.3	S E 039下尺1	890704	11-84	18-38	14	A
163	甕	須恵器	"	90%	口径13.4 高台径9.8 器高3.7	S E 040	890704	8-61	17-23	14	A
164	甕	須恵器	"	完形	口径13.4 推 口径13.4 底径9.6 器高3.5	S E 040	890704	8-60	-	14	A
165	高台付坏	土師器	奈良	40%	口径22.0 底径19.0 器高2.2	S E 040	890704	8-59	-	14	A
166	高台付坏	須恵器	"	50%	口径7.8 底径7.0 器高1.75	S E 046	890704	10-69	-	14	A
167	坏	須恵器	"	60%	長さ4.3 径0.6~0.9 孔径0.4	S E 046	890704	10-74	-	14	A
168	小皿	土師器	鎌倉~室町	完形	口径8.2 底径7.3 器高1.7	S E 047	890704	10-70	-	14	A
169	土錘	土製品	"	完形	口径8.3 底径6.8 器高1.75	S E 047	890704	10-71	-	14	A
170	小皿	土師器	"	80%							
171	小皿	土師器	"	80%							

阿高遺跡（A地区）I種

番 号	名 称	種 別	時 代	残存率(%)	法 量	遺 構 名	出土年月	報告書掲載 図番号 Fig.番号	コンテナ番号	A・Bの別
172	碗	黒色土器 (内黒)	平安	70%	口径14.8 高台径7.6 器高6.8	S E 053	890705	3-13	14	A
173	高 坏	土 師 器	古墳	不明	推 口径17.6 残 器高18.4	S E 078	890727	15-104	14	A
174	高坏坏部	土 師 器	古墳	不明		S E 078	890727	未	14	B
175	高坏坏部	土 師 器	"	不明		S E 078	890727	未	14	B
176	坏	土 師 器	平安	70%	口径14.8 底径11.5 器高3.9	S E 078	890727	22-136	14	A
177	鉢 (片口)	須恵土器	鎌倉	60%	口径29.0 底径10.7 器高11.85	S E 078	890727	31-168	14	A
178	碗	磁 器	"	不明	推 口径16.8 残 器高4.9	S E 078	890727	22-137	14	A
179	碗	磁 器	"	不明	推 口径17.36 残 器高4.9	S E 078	890727	22-138	14	A
180	石鍋	滑石製品	"	不明	口径23.3 底径28.0 器高14.1	S E 078	890727	31-169	14	A
181	石鍋	滑石製品	"	不明		S E 078	890727	未	15	B
182	石鍋	滑石製品	"	不明		S E 078	890727	未	15	B
183	不明	石 製 品	"	不明		S E 078	890727	未	15	B
184	甕のハグチ	土 師 器	"	不明	裾部径8.9 器高12.0 残	S E 079	890727	24-153	15	A
185	甕のハグチ	土 師 器	"	不明	裾部径10.8 器高15.9 残	"	890727	26-161	15	A
186	高坏・坏部	土 師 器	"	不明		"	890727	未	15	B
187	高台付坏	須恵器	"	40%	推 口径12.9 高台径7.2 器高4.4	"	890727	11-86	15	A
188	坏	須恵器	"	80%	口径17.6 底径13.9 器高2.7	"	890727	12-90	15	A
189	坏	須恵器	"	40%		"	890727	未	15	B
190	坏	土 師 器	鎌倉	80%	口径13.8 器高5.6	P-20	890627	4-25	15	A

阿高遺跡 (A 地区) I 種

[illegible]

阿高遺跡 (A 地区) I 種

佐賀市文化財調査報告書第30集

阿 高 遺 跡

平成2年3月31日

発行 佐賀市教育委員会
佐賀市栄町1番1号

印刷 日之出印刷(株)
佐賀市高木瀬西6丁目11-5

